

医療関係者の皆様へ

神経難病の方のコミュニケーションについて ご配慮をお願いします

コミュニケーションは、意思を伝えたり、感情を表出したり、お互いの心を通わせるなど、人が生きていく上で欠かすことができないとても大切な行為です。

神経難病(ALS など)を抱える方については、症状の進行に伴い、言葉が出なくなったり、書字ができなくなるなど、意思疎通が難しくなることがあります。身体の僅かな動きでタブレット端末を操作し意思を伝えたり、目の動きで文字盤を用いて意思を伝えるなど、様々な方法でその方に合った意思の伝え方があります。

北九州市では、本人・家族や医療・介護従事者の方を対象に、コミュニケーションに関する相談支援を行っています。



支援の一例をご紹介します

疾病の進行に伴い気管切開して声が出ず、手足もほとんど動かない入院中のAさん。

主治医から福祉用具プラザに、「何か良いコミュニケーション手段はないか」との相談がありました。大まかな様子をお聞きした上で、紹介できそうな機器を持参して病院のリハビリ室へ作業療法士が訪問しました。

Aさんに機器を紹介した後、スイッチを通じて自分の意思を入力できる機器をしばらく試用してもらいました。病院スタッフの方にも機器のセッティングや操作を学んでいただき、フォローアップをお願いしました。

その結果、Aさんは、機器を使用して自分の意思を家族や病院スタッフに伝えることができています。



コミュニケーション支援の基本

- 意思の表出ができなくても、「伝えたい」気持ちが常にあることを忘れないことが大切です。
- 病気を見るのではなく、「その人」を見る姿勢が大切です。
- コミュニケーションをとる方法は、本人の想いに寄り添い、スタッフも一緒に考えてみましょう。

ぜひ、お気軽にご相談ください！！

連絡先:福祉用具プラザ北九州

(電話) 093-522-8721

(ホームページアドレス)<https://www.kati.gr.jp/>

(所在地) 小倉北区馬借一丁目7-1 総合保健福祉センター(アシスト21)1階



オンライン相談
もできます



支援者向け研修会も
開催しています

【ちらしに関する問合せ先(事業所管課)】

北九州市保健福祉局地域リハビリテーション推進課 (電話)093-522-8724